
中央大学大学院

国際情報研究科

出題意図・解答又は解答例

2024年度・2025年度・2026年度入試

一般入試

社会人特別入試

行動する知性。

 中央大学

国際情報研究科 修士課程

2026年度は実施された試験科目を全て掲載、2024年度、2025年度は一部掲載となります。

2024・2025年度の入学試験は『秋季』『春季』として、2026年度は『第2期』『第3期』として実施しています。

研究科	専攻	課程	科目名	入試方式	年度	ページ
国際情報	国際情報	修士	情報法	一般入学試験（春季）	2025	1
国際情報	国際情報	修士	情報法	一般入学試験（第2期）	2026	2
国際情報	国際情報	修士	メディア論	一般入学試験（秋季）	2025	3
国際情報	国際情報	修士	メディア論	一般入学試験（春季）	2025	4
国際情報	国際情報	修士	理論情報学	一般入学試験（秋季）	2024	5
国際情報	国際情報	修士	理論情報学	一般入学試験（第3期）	2026	7
国際情報	国際情報	修士	実践情報学	一般入学試験（春季）	2025	9
国際情報	国際情報	修士	実践情報学	一般入学試験（第3期）	2026	10
国際情報	国際情報	修士	小論文	社会人特別入学試験（秋季）	2025	11
国際情報	国際情報	修士	小論文	社会人特別入学試験（春季）	2025	12
国際情報	国際情報	修士	小論文	社会人特別入学試験（第2期）	2026	13
国際情報	国際情報	修士	小論文	社会人特別入学試験（第3期）	2026	14

入試年度・方式	2025年度 一般入試（春季）
試験科目	情報法
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には情報法分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文のポイントを挙げつつ解答していること。 ・設問に示されたキーワードを適切に説明しながら問題状況を説明すること。 ・国外法令に触れつつ具体的な規律の内容を説明すること。

入試年度・方式	2026年度 一般入試（第2期）
試験科目	情報法
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には情報法分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文に示されたヒントを把握しながら設問に答えていること。 ・記載事項のバランスに配慮し、ハードロー、ソフトローを意識しながら具体的な対策を論じていること。

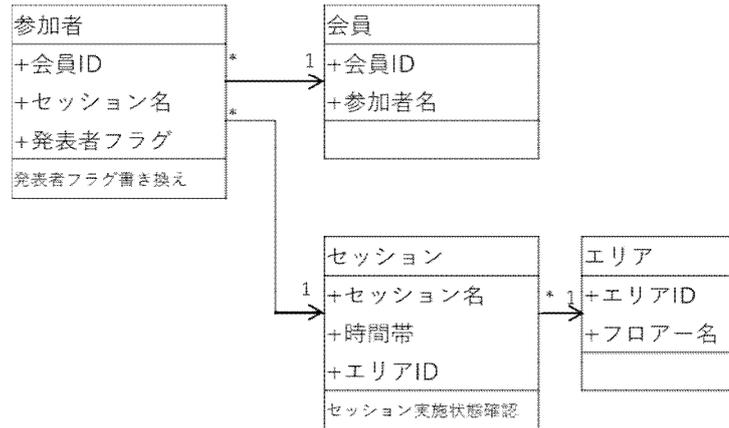
入試年度・方式	2025年度 一般入試（秋季）
試験科目	メディア論
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的にはメディア論分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本問題は、解答者の経験や過去に学習した専門分野によって、幅広い内容の解答がされることを想定した正解の範囲に幅のある開かれた問題である。 そのような試験問題の性格上、特定の解答例を示すと誤解を与えたり、解答範囲を誤解されたりする懸念がある。そこで、解答例の代わりに解答のポイントを示すことにする。</p> <p>【解答のポイント】 【問題 1】 ・インターネットの登場で、人間のメディア接触行動が激変していることを理解しているかどうか。 ・デジタル時代には「コンテンツ」、「知的財産」がさらに重要になることを理解しているかどうか。 ・メディアに関連する社会現象とその将来について、自分の考えを論理的に表現できているかどうか。</p> <p>【問題 2】 ・「メディアリテラシー」の基本概念とその変容について、正しく理解しているかどうか。 ・メディアに対するAI（人工知能）のインパクトについて、基本的な知識を持っているかどうか。 ・メディアに関連する社会現象とその将来について、自分の考えを論理的に表現できているかどうか。</p>

入試年度・方式	2025年度 一般入試（春季）
試験科目	メディア論
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的にはメディア論分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本問題は、解答者の経験や過去に学習した専門分野によって、幅広い内容の解答がされることを想定した正解の範囲に幅のある開かれた問題である。 そのような試験問題の性格上、特定の解答例を示すと誤解を与えたり、解答範囲を誤解されたりする懸念がある。そこで、解答例の代わりに解答のポイントを示すことにする。</p> <p>【解答のポイント】 【問題 1】 ・マスメディアの持つジャーナリズム機能について正しく理解しているかどうか。 ・メディアに関連して流通する言説について、自分の考えを論理的に表現できているかどうか。</p> <p>【問題 2】 ・「メディアリテラシー」の基本概念とその変容について、正しく理解しているかどうか。 ・メディア教育コンテンツについて、どのような要素が、なぜ必要になるのか、意識しながら設計できるかどうか。 ・問題文に指定された条件に合わせながら、自分の考えを論理的に展開できているかどうか。</p>

入試年度・方式	2024年度 一般入試（秋季）																																																																																						
試験科目	理論情報学																																																																																						
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には理論情報学分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題を題材として、問いの的確な把握とともに、適切な解法の提示あるいは自身の考案する適切な具体的解法を求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>																																																																																						
解答	<p>【問題1】 設問(1)【解答】</p> <table border="1" data-bbox="536 853 970 1151"> <thead> <tr> <th colspan="3">参加者</th> <th colspan="2">会員</th> </tr> <tr> <th>会員ID</th> <th>発表者フラグ</th> <th>セッション名</th> <th>会員ID</th> <th>参加者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>g567</td> <td>0</td> <td>CG</td> <td>g567</td> <td>山村一</td> </tr> <tr> <td>g808</td> <td>0</td> <td>IoT</td> <td>g808</td> <td>谷里子</td> </tr> <tr> <td>s025</td> <td>0</td> <td>AIと社会</td> <td>s025</td> <td>木田公三</td> </tr> <tr> <td>s113</td> <td>0</td> <td>AI</td> <td>s113</td> <td>川下りん</td> </tr> <tr> <td>g567</td> <td>0</td> <td>ビッグデータ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>g808</td> <td>0</td> <td>IoT</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>s025</td> <td>0</td> <td>AI</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>s113</td> <td>0</td> <td>応用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="536 1173 887 1413"> <thead> <tr> <th colspan="3">セッション</th> </tr> <tr> <th>セッション名</th> <th>時間帯</th> <th>エリアID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CG</td> <td></td> <td>1A1</td> </tr> <tr> <td>IoT</td> <td></td> <td>1A2</td> </tr> <tr> <td>AIと社会</td> <td>2</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>AI</td> <td>2</td> <td>A1</td> </tr> <tr> <td>ビッグデータ</td> <td>3</td> <td>A2</td> </tr> <tr> <td>応用</td> <td>2</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1007 1061 1254 1240"> <thead> <tr> <th colspan="2">エリア</th> </tr> <tr> <th>エリアID</th> <th>フロア名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A1</td> <td>総合ホール</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>総合ホール</td> </tr> <tr> <td>B1</td> <td>本館ロビー</td> </tr> <tr> <td>B2</td> <td>本館ロビー</td> </tr> </tbody> </table> <p>(各表の内容が正しければ、表および表のキャプション・セル内の配置などは任意とする。また、横線は解答用紙の罫線のまま使用しているものとする。なお、設例に与えられた未整理の文章の中から適切に情報を抜き出せることを図る意図があるので、システム化に関係のある記述のみに着目した項目になっている必要がある。)</p>	参加者			会員		会員ID	発表者フラグ	セッション名	会員ID	参加者名	g567	0	CG	g567	山村一	g808	0	IoT	g808	谷里子	s025	0	AIと社会	s025	木田公三	s113	0	AI	s113	川下りん	g567	0	ビッグデータ			g808	0	IoT			s025	0	AI			s113	0	応用			セッション			セッション名	時間帯	エリアID	CG		1A1	IoT		1A2	AIと社会	2	B2	AI	2	A1	ビッグデータ	3	A2	応用	2	B1	エリア		エリアID	フロア名	A1	総合ホール	A2	総合ホール	B1	本館ロビー	B2	本館ロビー
参加者			会員																																																																																				
会員ID	発表者フラグ	セッション名	会員ID	参加者名																																																																																			
g567	0	CG	g567	山村一																																																																																			
g808	0	IoT	g808	谷里子																																																																																			
s025	0	AIと社会	s025	木田公三																																																																																			
s113	0	AI	s113	川下りん																																																																																			
g567	0	ビッグデータ																																																																																					
g808	0	IoT																																																																																					
s025	0	AI																																																																																					
s113	0	応用																																																																																					
セッション																																																																																							
セッション名	時間帯	エリアID																																																																																					
CG		1A1																																																																																					
IoT		1A2																																																																																					
AIと社会	2	B2																																																																																					
AI	2	A1																																																																																					
ビッグデータ	3	A2																																																																																					
応用	2	B1																																																																																					
エリア																																																																																							
エリアID	フロア名																																																																																						
A1	総合ホール																																																																																						
A2	総合ホール																																																																																						
B1	本館ロビー																																																																																						
B2	本館ロビー																																																																																						

【問題1】設問(2)、設問(3) 及び 【問題2】 は次頁

設問(2)【解答例】



(各クラスの内容がUML表記に従って正しく、かつクラス間の接続関係も正しければ、クラス配置やクラス内の配列順序は任意とする。操作名は指示にしたがってよいものとする。また、各線はフリーハンドで構わないが、縦横の線を明記すること。)

設問(3)【解答例】

- クラス名：参加者
- 操作名：発表者フラグ書き換え
- A) 入力値は整数値0か1の発表者フラグの値
- B) 変化は発表者フラグの値が更新更新される

解答

【問題2】

設問(1)【解答】

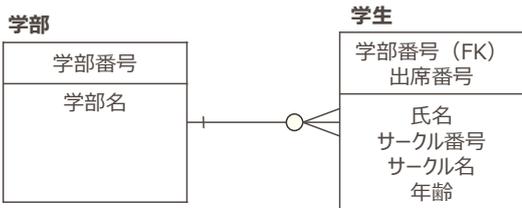
480秒
($30 \times 10^9 \times 32$ 命令、クロック周波数が2GHzであるから、480秒となる。)

設問(2)【解答】

0.75倍
(1.5GHzのクロック周波数で32命令を実行した結果が480秒になればよいのでクロックサイクル数は 22.5×10^9 になればよい。)

設問(3)【解答】

110

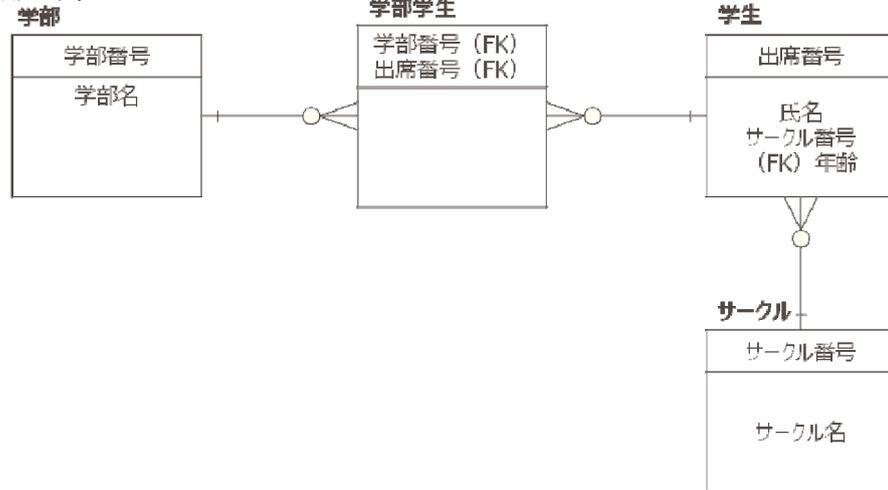
入試年度・方式	2026年度 一般入試（第3期）
試験科目	理論情報学
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には理論情報学分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題を題材として、問いの的確な把握とともに、適切な解法の提示あるいは自身の考案する適切な具体的な解法を求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>問題 I</p> <p>設問（1） 関係データベースでは、データは行と列を持つテーブル（表）の形式で管理されている。関係データベースでは、テーブル同士の関係性を定義でき、指定した列をキーにして複数のテーブルを組み合わせることで、目的に合わせたデータの活用ができる。</p> <p>設問（2） 正規化のメリットは、テーブルを分割してデータの重複を排除することで、データの不整合が起きるリスクを減らせることである。正規化のデメリットは、テーブルを分割することでデータ参照時に結合処理が多く発生するため、データベースのレスポンスが低下する場合があることである。</p> <p>設問（3） 原子性とは、トランザクションとして実行される一連の処理が、すべての処理が完全な形で実行されるか、どの処理も実行されず実行前の状態に戻るか、のどちらかで終わることである。一貫性とは、トランザクションの処理中に書き込まれたデータが、事前に定義されたすべてのルールや制約に従うことである。独立性とは、同一の表を操作・変更する複数のトランザクションを同時に実行しても、単独で実行した場合と同じ結果を得られることである。永続性とは、トランザクション実行後の状況が失われないことであり、障害が発生した場合はバックアップやログファイルを用いて復旧可能となることである。</p> <p>設問（4）</p> 

【問題 I】 設問(5)、設問(6) 及び【問題 II】 は次頁

設問 (5)



設問 (6)



問題 II

設問(1)

First-Come, First-Served Scheduling Algorithm

プロセス1 : $(4+0)-0 = 4$

プロセス2 : $(4+9+0)-1 = 12$

プロセス3 : $(4+9+8+0)-3 = 18$

プロセス4 : $(4+9+8+3)-5 = 19$

$(4+12+18+19)/4 = 13.25(s)$

Shortest-Job First Scheduling

プロセス1 : $(4+0)-0 = 4$

プロセス2 : $(9+3+8+4+0)-1 = 23$

プロセス3 : $(8+4+0)-3 = 9$

プロセス4 : $(3+8+4+0)-5 = 10$

$(4+23+9+10)/4 = 11.5(s)$

設問(2)

Non-Preemptive Scheduling

プロセスの中断を許容しないスケジューリングで、プロセスがWaiting状態に以降した場合かプロセスが終了した場合のみに次のプロセスに切り替わる。

Preemptive Scheduling

プロセスの中断を許容するスケジューリングで、Non-Preemptive Schedulingの条件に加えて、プロセスがRunning状態で割り時間を使い切るか、プロセスがWaitingからReadyに以降した場合にプロセスが切り替わる。

設問(3)

実行するプロセスの数が多きときに、優先度の低いプロセスがCPUに割り当てられず、処理が実行できなくなる現象。

設問(4)

現在実行しているプロセスを停止し、レジスタの状態など、現在実行中のプロセスに関するCPU情報をメモリに退避し、次に実行するプロセスに必要な情報をCPUに配置する処理のこと。

解答または解答例

入試年度・方式	2025年度 一般入試（春季）
試験科目	実践情報学
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には実践情報学分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本問題は、解答者の経験や過去に学習した専門分野によって、幅広い内容の解答がされることを想定した正解の範囲に幅のある開かれた問題である。 そのような試験問題の性格上、特定の解答例を示すと誤解を与えたり、解答範囲を誤解されたりする懸念がある。そこで、解答例の代わりに解答のポイントを示すことにする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること。 クラウド、エッジ、オンプレミス の定義が明確に理解できており、対比することができているか。 クラウド、エッジ、オンプレミスの役割分担、各々のメリット、デメリットを言語化できているか。 ・解答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがないこと。 これらの技術的な特性やトレードオフを正しく理解できているか。 それぞれの技術について、遅延、通信帯域、プライバシー保護、処理能力、ストレージ、スケールビリティ、耐障害性の側面からの制約を把握しているか。 専門用語が文脈に即して正しく使われているか。 ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること。 問題1、2を通じて文章の整合性は確保されているか。 特性の羅列にとどまらず、説得力、可読性の高い文章を構成できているか。 単なる技術論に留まらず、社会実装上の課題にも視野を広げた、多角的な検討が行われていればなお良い。

入試年度・方式	2026年度 一般入試（第3期）
試験科目	実践情報学
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、一般入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、各専門分野について基本的な知見を持ち、学際的なテーマに関して論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。具体的には実践情報学分野の主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本問題は、解答者の経験や過去に学習した専門分野によって、幅広い内容の解答がされることを想定した正解の範囲に幅のある開かれた問題である。 そのような試験問題の性格上、特定の解答例を示すと誤解を与えたり、解答範囲を誤解されたりする懸念がある。そこで、解答例の代わりに解答のポイントを示すことにする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること。 社会実装が進められている新しい技術の動向について興味を持ち、明確に理解できているか。 新しい技術と社会受容性について考察し、論理的に説明できているか。 ・解答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがないこと。 解答した技術の特性や社会的な影響を正しく理解できているか。 解答した技術について、社会的な受容を阻む要因を把握しているか。 専門用語が文脈に即して正しく使われているか。 ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること。 問題Ⅰ、Ⅱを通じて文章の整合性は確保されているか。 説得力、可読性の高い文章を構成できているか。 社会受容性について社会実装上の課題にも視野を広げた、多角的な検討が行われていればなお良い。

入試年度・方式	2025年度 社会人特別入試（秋季）
試験科目	小論文
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、社会人特別入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、実務経験を踏まえた論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。</p> <p>具体的には、学際的な課題を含む論説を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること(設問に答えていない答案は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「問いを的確に把握する」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る) ・解答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがないこと（事実や基礎知識の誤りは、「情報及び情報に関連する法律・規範・・・の知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養」や「当該分野に関する基礎知識の」欠如等を理由に、減点対象となり得る) ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること（根拠をあげた論理的な文章で書かれていない場合は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「論理的な検討」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る) ・問2において「あなた自身が考える、AIの開発や利活用にELSIも必要な理由や根拠や具体例について、記載下さい」と求める理由は、「自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測る」ことにある。

入試年度・方式	2025年度 社会人特別入試（春季）
試験科目	小論文
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、社会人特別入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、実務経験を踏まえた論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。</p> <p>具体的には、学際的な課題を含む論説を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること。とくに、抽象的な解答ではなく指示に従い具体的に解答が描かれていること ・解答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがなく、設問で指定された内容を網羅した解答となっていること ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること

入試年度・方式	2026年度 社会人特別入試（第2期）
試験科目	小論文
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、社会人特別入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、実務経験を踏まえた論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。</p> <p>具体的には、学際的な課題を含む論説を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること（設問に対して明確かつ直截に答えていない答案は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「問いを的確に把握する」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る） ・回答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがないこと（事実や基礎知識の誤りは、「情報及び情報に関連する法律・規範...」の知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養」や「当該分野に関する基礎知識の」欠如等を理由に、減点対象となり得る） ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること（根拠をあげた論理的な文章で書かれていない場合は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「論理的な検討」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る）

入試年度・方式	2026年度 社会人特別入試（第3期）
試験科目	小論文
出題の意図	<p>「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、社会人特別入学試験においては、情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論を統合し、その知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養として、実務経験を踏まえた論理的かつ明晰な検討を行う素養があるかどうかを確かめることを目指している。</p> <p>具体的には、学際的な課題を含む論説を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。</p>
解答または解答例	<p>【解答について】 本試験科目は問題文が著作権等の関係により非公表となっているため、解答についても非公表とする。ただし、解答のポイントを示すこととする。</p> <p>【解答のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設問に対して、明確かつ直截に答えていること（設問に対して明確かつ直截に答えていない回答は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「問いを的確に把握する」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る） ・回答内容に記載された事実や基礎知識に誤りがないこと（事実や基礎知識の誤りは、「情報及び情報に関連する法律・規範...の知見をもって現代社会における諸問題を解決するための教育研究を行うための素養」や「当該分野に関する基礎知識の」欠如等を理由に、減点対象となり得る） ・根拠をあげた論理的な文章で書かれていること（根拠をあげた論理的な文章で書かれていない場合は、「論理的かつ明晰な検討を行う素養」や「論理的な検討」能力の欠如等を理由に、減点対象となり得る）